

阿南町社会福祉協議会

第102号

まめだがな？

長野県下伊那郡阿南町西條709 「おげんきサルビアの郷」内

TEL(0260)22-3151

現場レポート

～No.5～

まめな人達はお休み
します。
次回をお楽しみに!!



え、災害時の対応から日常の地域づくりにいたで、ボランティア活動の意義を再確認し、地域ながりを見直す良い機会となりました。

まず、栄村復興支援機構“結い”代表の相澤氏から「震災を乗り越えて、希望ある地域づくりめざす」と題して、発災直後の生々しい状況つまり、復興活動の内容が、スライドを追いかがられました。

三月十二日の夜明け前、震度六強の直下型のが発生。二時間後の午前六時には震災対策本部場に設置され、早急な避難指示により、地震直死亡者はなく、全村民の安否確認も速やかに行なれた。何故ならば、村民同士お互いにどこで何ているのか普段から分かり合っている。しかし村内でも、地区によつて被災状況が全く違つた。甚大な被害のあつた所とそうでない所とは、その後の対応に温度差があつた。被害大の地区では、集落コミュニティーをどうしていくのか、早急な対応を迫っていた。災害は、日當地域の中にひそむ様々な課題や欠点を全てあぶり出してくる。少子高齢化の中で後継者問題をどうするのか、農業所得が上がらない、遊休



農地をどうするのか、若者の雇用問題等、いざれも
どこの中山間地でも抱える課題である。発災から五
日後の三月十七日に、『結い』が誕生した。震災に伴
う各地域からあがる様々な要望と日々解決しなけれ
ばならない状況を前に、応援する側の思いと活動を
つなげる役目を担うこと。行政は、制度に法つた支
援を脱却することは出来ない。こうした制度からこ
ぼれおちた災害弱者こそ、早急な支援を求めている。
村内を回りそうした小さな声を一つ一つ拾い上げ、
支援してくれる人とつなげることが、『結い』の出来
ことだ。その際気を付けることがある。村人は、見
ず知らずの他人に仕事を任せることはしないので、
外からのボランティアを入れるときは、最初必ず結
いのスタッフが案内人として一緒に付き添う。また、
これまで活動をしてくる中で、外からのボランティ
ア団体、特に学生ボランティアとのかかわり合いは、
お年寄りや子供達に大きな心の支えをもたらした。お
金では買えない、お互い信頼しあえる関係、そこには
新たなる『絆』が生まれた。もう一つ、今回の震災で
びっくりしたことは、被害の大きかつた地区と、そ
れまで全く交流の無かつた、むしろ疎外していたと
言つてもよい地区が、区長会の決議としてその地区
に支援の手を差し伸べたことだ。村民同士が助け合
うこと、そのことが、根幹に無いと、本当の意味で
の復興はあり得ない。今後の『結い』の活動は、地域貢
献型支援であり続けることを忘れずに、活動を続け
ていきたい。



授、栄村復興支援隊（農援隊）事務局の松島憲一氏から「栄村復興支援の現場にて、中山間地農山村のこれから」と題して、農援隊の結成から実際の取り組み内容と、そこから見えてきたことをお話をいただきました。

昨年十一月下旬、和合地区の鈴が沢南蛮というトウガラシの調査で、はじめて阿南町を訪れました。時を置かず今回の大大会に招かれたことで、阿南町との縁を感じている。大学では、機能性肥料開発学を専攻し、特にトウガラシの研究では、全国どこへでもすぐに飛んで行く。

昨年の長野県北部地震では、信州大学農学部として、同じ県内で被災された栄村の支援に学部として立ち上がる。教職員有志を中心に三月中旬には、農援隊事務局を結成し、四月下旬に第一回農援隊の派遣をした。支援の流れは、栄村復興支援機構結いから派遣要請があつた案件に関して、派遣登録している学生・教職員らに募集をかけて、実際の派遣に至る。内容は、宿泊施設の清掃、イネの育苗作業（田伏せ）、田上のお手伝い、水路補修（水路普請）、キノコ栽培施設の整理、被災水田へのそば播き・収穫、各種復興イベントのお手伝いなどでした。特に、『幸福そば』の企画販売においては、発売後二週間

本当に栄村の為になつたのか分からなくなつた時があつた。」と記されていた。

災害を克服する中山間地とは、魅力あるむらをつくること。景勝地、遊園地、美術館は無くとも、豊かな自然と伝統野菜などのむらならではの味があること。「あの人にまた会いたい！」と思えるような、人作り。百人の通りすがりより十人のリピーターをつくること。それが、いざという時のネットワークになつてくれる。

松島先生のお話では、日頃の人のつながりが、災害時の地域を盤石にする礎になるということを示していました。

最後に、三時間にもわたる長丁場の講演会にも係わらず、町内外から多くの方にご参加いただき、誠に有難うございました。今回の貴重なお話を参考に、阿南町における希望ある地域づくりがなされることを願います。

（井澤博之）



もう一
（笑）、
もう一

せますように！（木下歩美）



で完売するほど好評でした。
ボランティアに三十時間参加した学生へは、一単位付与される国の制度があるが、「単位が欲しくてやっているのではないです」と参加学生らの意識は、非常に高かつた。

サルビア通信

デイ新年会に、天童よしみが！ 豆まきで、今年の健康を祈願

一月十六日～二十日の五日間、サルビアとのどか合同で新年会を行いました。

今年の見どころは二つ。一つは職員による懐かしい作業で足手まといになつていて思つた。自己満足になつてしまつていなかつた時があつた。

災害を克服する中山間地とは、魅力あるむらをつくること。景勝地、遊園地、美術館は無くとも、豊かな自然と伝統野菜などのむらならではの味があること。「あの人にまた会いたい！」と思えるような、人作り。百人の通りすがりより十人のリピーターをつくること。それが、いざという時のネットワークになつてくれる。

松島先生のお話では、日頃の人のつながりが、災害時の地域を盤石にする礎になるということを示していました。

最後に、三時間にもわたる長丁場の講演会にも係わらず、町内外から多くの方にご参加いただき、誠に有難うございました。今回の貴重なお話を参考に、阿南町における希望ある地域づくりがなされることを願います。

（井澤博之）



拳といつてもただ脱いでいくだけではつまらないので、そこはデイサービスのルールで行う事に。お決まりの「野球拳」です。野球拳といつてもただ脱いでいくだけではつまらないので、そこはデイサービスの音頭で、社協局長とデイ所長の対決が始まりました。やられたらやり返すをくりかえし、何と局長！水着姿を披露することになつてしまいまし

た。そう、局長は男性ですよ

二月といえば節分ですね。今年、デイサービスには、とても恐ろしい鬼が現れました。

そこで利用者の皆さんには、豆をまいて追いかけていました。元気な声を出し、力いっぱい豆を鬼にぶつけました。

鬼は外！福は内！と元気な声を出し、力いっぱい豆を鬼にぶつけました。

つの見どころは、あの有名な天童よしみさんが!?といふのは冗談で、そつくりさんに、来ていただきました。その方は、飯田市西鼎で「幸」という焼肉店を経営しております。ステキな赤いドレスを着て、何曲も歌つて下さいました。とても美しい歌声で、見ている皆さんは手拍子をつけて下さいました。

長い間お世話になりました

「おはようござります」と元気な声で玄関に入つてくる利用者の皆さん。ここは、阿南町社会就労センター「やわらぎ園」です。当センターは、平成十八年度に阿南町社会福祉協議会が阿南町より委託を受け運営している社会事業授産施設です。「やわらぎ園」は、共同作業所として平成十五年度より阿南町社会福祉協議会が運営委託をしていました。

現在二十一名の利用者さんが、自動車ハーネスの仕事やプラスチック製品の不良品チェック等、町内企業さんより仕事をいただいて作業を行っています。

また、工賃アップの観点から農業も取り入れ、信州の伝統野菜「鈴が沢なす」「鈴が沢うり」や元気の

「おはようござります」と元気な声で玄関に入つてくる利用者の皆さん。



社会就労センターだより



出る芋「ホド芋（アピオス）」等の栽培、販売を地域の方々のご協力もいただいて行つてきました。

「やわらぎ園」は、皆さんご承知のとおり社会福祉法人「ひだまりの郷あなん」（阿南学園）の隣にあり、今回、阿南町の意向で「ひだまりの郷あなん」に運営を委託しようと準備が進められています。平成二十四年四月より障害者自立支援法に基づく就労支援施設として、新たなスタートをする予定です。

運営形態が変わつても、利用者の皆さんは今までどおり変わりなく利用できますので、これからもよろしくお願ひします。

阿南町社会福祉協議会としては、九年間地域福祉の観点から運営をしてきました。運営当初と比べて工賃も向上し、それなりに成果を挙げてきました。

運営期間中は、阿南町はじめ関係機関の皆さんとの温かいご指導ご支援を賜り、利用者の皆さんにも喜んで利用していただき、大変お世話になりましたがとうございました。

「やわらぎ園」の更なる充実をご期待申し上げ、今までのご厚情に深く感謝申し上げます。

（中島芳久）



まめだより

「田上のどんど焼き、皆の願い天まで！」

日 一月十五
まめだ
かな（グル
ープホーム）
みさと（高
齢者生活支
援ハウス）
の駐車場に
て、田上地
区の皆さん
と例年通
り、どんど
焼きを行
いました。

九時に点火されると、たちまち炎は天に昇り、パンッパンッと竹のはじける音とともに、あつという間に「おんべ」（神事に使

われる、白紙で作った紙垂などのこと）は燃えてしまいおきになりました。まめだかなみさとの利用者さん達も外に出て、一年間の無病息災を願いながら、近寄ると熱いほどのおきを遠巻きに囲み、手をかざしていました。

また、おき火でお餅を焼き、皆さんでおいしくいただきました。田上地区の方々が、お菓子を配つてくださつたり、利使用者さんらに声かけをして下さり、身体だけでなく、心も温まる交流の機会となりました。ありがとうございました。

（林 大介）



30周年記念 フォトコンテスト募集要項

1、【テーマ】 「えがお」・・・別タイトル無し

2、応募方法

【サイズ】 A4又は四つ切（修正無しのもの）

【点 数】 一人2点まで

【提出方法】 郵送もしくは持込み

〒399-1504 阿南町西条709番地 阿南町社会福祉協議会 宛



【注】作品裏面に住所・氏名をご記入下さい

3、募集期間

平成24年3月1日～平成24年4月30日



4、各賞、金、銀、銅賞等、振るってご応募ください！

看護職員及び介護職員の募集
(パート職員)

阿南町社協では、デイサービス等で勤務していただける方を募集しております！
募集内容：看護職及び、土日・祝日勤務可能な介護職（ヘルパー2級以上の資格必要）
*詳しくは、阿南町社協・担当玉置まで

☎ 0260-22-1151

掲示板 ひなたぼっこ

～阿南町内外の様々な情報を掲載いたします、載せたい情報がある方は、阿南町社協 地域福祉課まで、お寄せ下さい～

●高齢者なんでも無料電話相談『ひまわり長野』

弁護士が、お年寄りのかかえるお悩みを電話でお伺いしております。ご相談料はかかりません。

受付電話番号、フリーダイヤル **0120-65-9674**

受付・相談時間（相談時間の目安は30分程度です）

●毎週木曜日（祝日は除く） ●午後1時30分～午後4時30分

長野県弁護士会

野山に目を移せば、針金のよう伸びた樹々の梢はどこなく赤らんできています。春の足音がすぐそこまで近づいてきます。職場の上司が、どこからかフキノトウを探ってきて見せてくれました。酢味噌和えにしてもよし、天ぷらにしてもよし、晩酌の肴には最高ですね。これから、五月の連休にかけて様々な山菜が、お目見えしてきます。お好きな皆さんは、ウキウキと春うららの野に出でて、ひたすら摘んでいらっしゃることでしょう。ご多分にもれず私も大好きで、ノビルの油味噌、ノカンゾウのお浸し、ツクシンボウの煮つけ、ヨモギの天ぷら、：切りがありません。ただ放射能の被害にあわれた地域の方々の気持を考えると、複雑な思いにかられます。もうすぐ一年となります。合掌。

（井澤博之）

編集後記